

かちがわえきまえとおりしょうてんがい

勝川駅前通商店街

(勝川駅前通商店街振興組合)

愛知県春日井市旭町

長年継続した勝川弘法市が コロナ禍での街と住民を繋げた



取組の背景

地域住民とともに進化させた 勝川弘法市が地域の核に

2013年に商店街が独自に実施したアンケート調査の結果、周辺の総合整備事業の後に移転してきた子育て世代が中心の地区住民の多くは、勝川駅周辺を住空間として認識していると判明。地元商店街での買い物・飲食利用は少なく、普段の買い物等は主に名古屋市内や駅前スーパーなどを利用している実態がわかった。また、近隣地区の郊外型大型店等の進出により、商店街内での小売業の経営は非常に厳しく、最近の商店街への出店者は飲食店が多い。そうしたなかで、今後の商店街の役割を、勝川弘法市の継続開催による地域交流の核としていくことに見出し、勝川弘法市を地域住民とともに進化させてきた。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、商店街への来街者は一層激減し、小売業・飲食業を問わずほとんどの店舗で売上が半減し、非常に厳しい経営状

取組の内容

地域を巻き込んだ交流が 商店街への要望の種に

住民と商店、住民同士のコミュニティの場を提供するため2003年から毎月第3土曜日に勝川弘法市を継続して開催。約300mほどのエリアに約70店の露店が並ぶなかで、市内特産のサボテン料理の販売や地元パフォーマンス団体等の発表が行われ、地元住民をはじめ市外からも多くの来街者が訪れる交流の場として市内外に広く認知された。2013年には10月の勝川弘法市を親子ハロウィンフェスとして、当時はまだ珍しかったハロウィン企画を地域で先駆けて実施し、好評を得たことで定番イベントになる。近年では、地元小学校が勝川弘法市のハロウィン飾りとするカボチャの栽培を授業の一環で行うほか、小学生が作った作品を自ら商店街へ飾りつけしてもらうなど、勝川弘法市は商店街と地域住民がともに手作りで作りあげるというイメージを

況が続いた。地域住民の交流の場として始めた勝川弘法市も2020年3月を最後に中断しており、月に一度の提供を欠かさず行っていた『地域の憩いの場』をいかに維持・発展させていくか、地元の声も聞きながら検討を進めていた。そのような検討のなかで、子育て層の地区住民を、現在・将来顧客、まちづくりパートナーとして重視しているところから、新住民層との関係を強化し、顧客としての取り込みを実現することが課題であると考えた。



勝川大弘法の様子

定着させ、地域を巻き込んだ交流が行われている。2019年10月には200回を達成。当日は子供向けの記念イベントを多く実施するなど大変な賑わいをみせ、勝川弘法市が、長い年月をかけて商店街と子育て世代との関係強化に大きく貢献していることを印象づけた。

コロナ禍にあって勝川弘法市を開催できないなかでも、10月には小学校PTAと連携し地元商店にハロウィ



コロナ禍での取組 コロナ退散ペナント(2020.6)

ン飾りや小学生の作品を展示するなど、店舗と地域とのつながりを欠かすことのないよう積極的に働きかけをした。勝川弘法市の中止以降は、住民から再開を望ま

れる声が多く聞かれており、交流の核として地域に欠かすことができない存在となっている。

取組の成果

コロナ禍の街の廃業は0! 手作りの市で顧客を獲得

コロナ禍においても廃業となった店舗が“0件”で、これは、「勝川弘法市」を子どもたちやPTAと協力し「手作りする市」として長年継続してきたため、各店舗にファン

(固定客)が定着している結果である。勝川弘法市への出店者は開催当初の40店から近年では70店まで増加。最近では多くの出店申込に対して出店者の調整が行われるまでになっている。今後も持続可能な商店街として、運営に携わる人員を増やし、商店街全体で弘法市を盛りあげていく機運を醸成していく。

実施体制

商店街には専属の事務員が1名いる。2003年から現在まで継続して商店街の事務に携わっており、地元商店、地域住民との関係づくりを積極的に行っている。地域内に新しい店舗の出店があればプライベートでも立寄るなど、ほとんどの店舗についての

把握に努め、隣接する商店街区へも足を運んで事務を手伝うなど、周辺地区とも良好な関係を構築することに貢献している。

また、地元小学校だけでなく、市役所や春日井商工会議所とも密に連絡を取り合い連携し、市役所の関係部署にも勝川弘法市や事務員の存在は広く認知されており、GoTo商店街事業の採択申請を行う際の調整もスムーズに行うこともできた。

キーパーソンからのコメント

「先ずはやってみよう。やりながら考えよう」が勝川気質!

商店街の奥ほどに鎮座する、高さ18mの大弘法さまをネタに賑わいを造れないかと始めた毎月開催のテント市。組合員にとっては「やり続ける」ことがプレッシャーとなり、外野からは「マンネリだ」「惰性でやっているだけ」と言われ続けてきました。しかし地域の住民からは「いつ行っても同じ顔、馴染みの店があって和む」「のんびりゆったりな雰囲気が好き」「子どもの頃の

懐かしい思い出」と、いつのまにか勝川の日常的な風景となっていました。そんななか、まだ世の中にハロウィン企画が浸透していないときに川邊理事長が率先して「孫と楽しめる企画ならやってみよう」と理解を持って他の理事の背中を押してくれました。流動人口の多い地区ですが「で愛ふれ愛」人情の種を育てていきたい。



(前方左から)山口哲副理事長、川邊秀晃理事長、池本晴隆専務理事(後方左から)小柳出和文理事、出口美紀理事

商店街の概要

勝川駅前通商店街振興組合は、春日井市の勝川地区にあり、国鉄中央線勝川駅ができたことから商業・サービス業が集まる。1935年頃には連続した街並みが形成され、1949年に勝川発展会が、1975年に勝川商店街振興組合が設立された。現在では春日井市内で最も機能的で現代的な市街地となった。JR勝川駅のほか、南側には名古屋第二環状道路、西側には国道19号が通り交通利便性が高く、マンションが複数建設され、地区住民に子育て世代が多い。勝川地区で長期にわたって営業する商業者も多く、商店街と自治会等地域住民との関係は良好である。

所在地 愛知県春日井市旭町
人口 約31万人(春日井市)
電話 0568-31-9282
FAX 0568-33-4533

URL <http://o-cobo.jp>
会員数 58名
店舗数 89店舗(小売業35店、飲食業25店、サービス業17店、医療サービス業3店、その他9店)

商店街の類型 複合型
主な客層 高齢者、
家族連れ(親子)
/60歳代、10歳代以下